

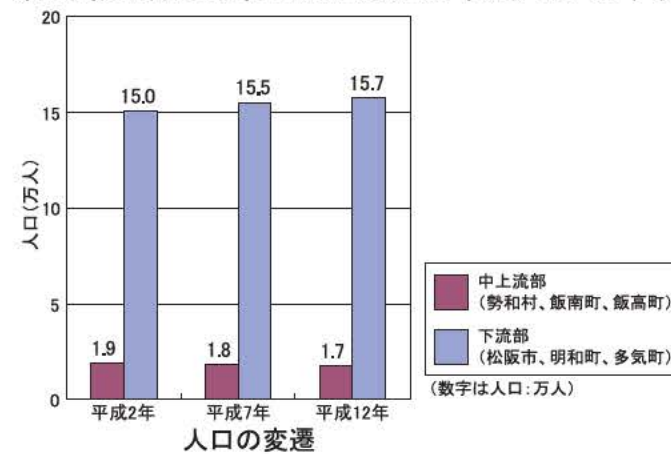
櫛田川流域の姿

●豊かな自然環境を有し、歴史・文化を伝える香り高き清流

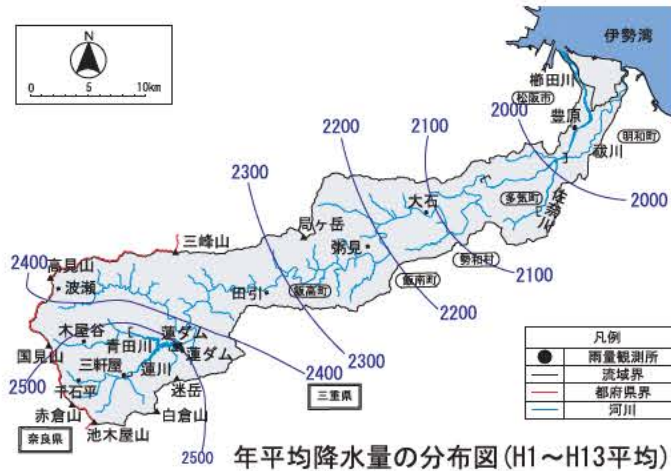
櫛田川は、高見山(標高1,249m)を水源とした幹川流路延長87km、流域面積436km²の一級河川です。上中流部は自然環境に恵まれ、室生赤目青山国定公園や香肌峡県立自然公園に指定されています。



沿江市町村には約17万人の人が住んでいます。



上流部の年降水量は約2,500mmを超え、中下流部も全国平均を上回る多雨地帯です。



流域の土地利用は、山林・原野と農用地が9割以上を占めています。



古来より街道が開け、舟運も栄え、国指定の史跡である斎宮跡などがあります。



櫛田川の特徴

●上流部の特徴

山間地域の溪谷部を流れ、高滝など点在する滝が変化に富む溪谷美をつくっています。



高滝



櫛田川本川上流 (波瀬～高見山) 急峻な溪谷の間を流れています。

●中流部の特徴

蛇行を繰り返しながら、河岸段丘の谷間を流れ、九十九曲の流れ、恵比寿河原、大石といった景勝地をつくり出しています。



恵比寿河原



櫛田川本川中流 (九十九曲付近) 丘陵地帯の間を蛇行を繰り返しながら流れ、様々な溪谷美を形成しています。

●下流部の特徴

河岸には河畔林が分布し、頭首工の湛水区域が連続し、流れの緩やかな区間となっています。河口部には干潟が見られます。



櫛田川本川下流 (両郡橋付近) 河畔林が連続し、沿川には家屋が密集しています。



櫛田川本川下流 河口付近には干潟が見られ、多様な生物の生息、生育の場となっています。